

どんびきま

2007年5月1日発行
 発行者 椈の湖農業小学校

お釈迦様

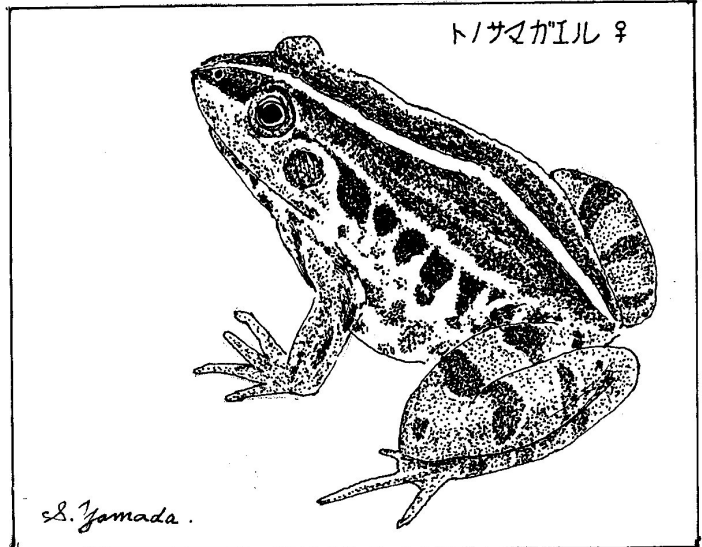
この年になって生まれて始めて甘茶を呑んだ。灌仏会(花祭り)の甘茶である。

仏教国の中で誕生仏を拝むのは日本だけのようだ。仏陀(悟りを開いた人)になってこそ崇められるようになるのだという。

お釈迦様のいくつかの教え・戒めの中で最も大事と思われるものの一つが「殺生をするな」である。

「万物に霊がある。あらゆる命を慈しめ。生きる為に食する以外には命をうばってはならない。」という意味に理解している。これはアイヌや日本人の原始神道の考え方で全く同じで、仏教が日本へ入り広まる内、神道と混じり、人々の意識・道徳のなかへ溶け込んでいったのもむしろ自然と思われる。

これは農業小学校で皆さんに伝えたいことの第一番でもある。(草)



子どものころ、どんびきの肛門にストローをさし込み息を吹き込んで遊んだ。蛙の腹はぼんぼんに膨らむが、途中で気を抜くと空気が逆流して口の中が生臭くなった。哀れな蛙たちは池に戻すと仰向けに浮いてしまってもぐもぐ泳ぐことが出来ない、ずいぶん酷い遊びをしたものだ。今思えば犠牲になったどんびきたちはすべてトノサマガエルであった。トノサマガエルは最も馴染み深いどんびきで身近にいくらでもいたが、近年になって農業や温暖化などによる受難が重なりその数は限りなく減少している。

5月授業日のご案内

日程	5月20日(日)	服装	作業のできる服装
受付	9:00 ~ 9:30	持ち物	手袋、タオル、長靴、雨具、 買い物袋、お茶、箸、食器
始めの会	9:30 ~ 9:40		着替え(天気がよくても)
授業(畑仕事)	9:40 ~ 11:30	郷土料理	草餅、ぼた餅、みそ汁等
	草取り・土寄せ・苗植えなど		かぼちゃの苗は1本持参して下さい。
昼食	11:30 ~ 13:00		それぞれの名札を立てて、かぼちゃ畑 に植えます。
授業(田植え)	13:00 ~ 15:00		
	田植え後バケツ稲の説明と 土・苗を配ります。		
終わりの会	15:00 ~ 15:15		バケツ稲用の土を配ります。10リットル 位のバケツをお持ち下さい。
締め切り	5月16日(厳守)		
問い合わせ・緊急連絡			

TEL 0573-75-4417 ・ 090-5110-9362 (山内總太郎)

TEL 0573-75-2109 (椈の湖自然公園管理棟) 当日のみ

～とくちゃんの農小レポート～

「はるは花も満開、気分もまんかいだ～」

残雪の恵那山を遠くに望み、やまざくらとこぶしで彩られた、高森山を間近かに眺め桜の湖畔の染井吉野も満開となり、一年中で最も華やかな時期に4月授業が始った。

今年は何時もの年に比べ、コブシの花が沢山咲いています。昔からコブシの花が多いと豊作と云われていますので、農小も豊作を期待しましょう。

1 畑の作業

苗の植付け。レタス。サニーレタス。ブロッコリー。スティックセニョール。
白菜。ねぎ(二種)。里芋の植付けと大根の種蒔き。

観察 3月に蒔いたハウレンソウはどんな状態でしたか？

2 昼食

たけのご飯。かき玉汁。たけのこ天ぷら。ねぎの天ぷら。春菜とニンジンのごま和え。たくわんの粕漬け。

3 桜の湖さくらまつり

午後からは例年通り「桜の湖さくら祭り」に参加しました。コンサートや屋台店をのぞいて楽しみ、ビンゴゲームや餅投げも楽しみました。

今年のビンゴの成績は如何だったでしょう？。

4 持ち帰り

かぼちゃの種2粒に土とポット。稲の種(籾)JA提供品。

カブトムシの幼虫2匹。

南瓜はポットで苗を育て、農小に持ち帰って名札を付けて畑に植えます。

籾は苗を作りバケツで育てます。5月には稲の苗も配りますので、それぞれに比べながら観察してみましよう。

カブトムシは成虫になった頃、持ち寄って相撲大会が行なわれますので、上手に育てて丈夫なカブトムシを持参して下さい。

～とくちゃんのちょっと一言～

「焚き火」

今年校長先生の発案により、機会あるごとに「たきび」に挑戦することになりました。火はとても危険なものですが、人間にとってはとても大切なものでもあります。電気やガスは何処にでもあるわけではありませんので、そんな条件の時でも火を使って煮炊きをしたり、暖をとったりするためには、うまく火を使うことが出来なくてはなりません。見ているとまだまだ着火の要領が良く解らない様子です。先生方の指導のもとに、危なくない安全な方法で火を燃やす体験をしましょう。機会があれば「飯盒炊さん」も体験出来れば良いと思います。

～ 安保兄の百姓ばなし～

「水」

4月授業日に皆で参加した「さくらまつり」の会場桜の湖は見た通りの小さな人造湖だが、その名は全国に知られている。70年代の音楽シーン・フォークソングブームを先駆けた「全日本フォークジャンボリー（69～71）」の会場であったからだ。安保兄は実行委員の中心メンバーとして関わった。

当時は湖面の周りに桜の木は植えてあったものの、広場・ステージ・管理棟などはコンサート以後整備されたものだ。

桜の湖は昭和20年代戦後の食料不足の対策に建設された農業用の人造湖だ。元々小さな溜め池がいくつかあった山の鞍部をせぎ止める大きな堤防を築くに、大型機械はなく、ほとんど手作業で進められ、膨大なお金と年月がかかった。坂下・福岡両町の開拓地で米を作る為のものだったが、末端まで充分に水が行き渡らずいつも争いがあった。元々大きな水源が無い為、町有林からの招水路の延長工事が続けられたものの桜の湖の水量不足はいつも話題になっていた。

一方配水の無駄・水漏れを無くす為に全地域のパイプライン化が計画され、建設から50年たった平成19年やっと完成を迎えた。今までは水の無い事が定番だったが、これからは満々と水を湛えた光景が楽しみだ。

皮肉な事に現在は米余り現象で、減反といって米を作りたくても作る事ができない面積が45%にもなっている。それでいて、日本の食料自給率は40%しかない。個々にみると、米95%、小麦14%、大豆5%、牛肉43%などである。（17年度東海農政局調べ）

食農教育5月号を読んでいて「日本は大量の水を輸入している」とあってビックリした。食料の輸入は水を輸入している事と同じだというのだ。つまり食べ物を100グラム生産するのに使われる水の量は、米360リットル、小麦200リットル、大豆250リットル、牛肉2070リットルが必要というからだ。

私たちの国の食料を生産するためには、国内の農地面積の2.5倍の外国の農地が使われ、そこでは国内の年間農業用水572億トンより多い640億トンもの水が消費されている。日本は食料と化した水の世界一の輸入国であるのだ。世界が水不足に直面しつつある中で、これからも大量の食料を外国に依存していくことが本当に可能なのであろうか？

養老孟司氏の「水が招く中国農業の危機」によると、中国は黄砂などで知られているように、水が不足する国で、前世紀には黄河が断水したことがある。あの大きな河の水が河口まで届かなかったのだ。その中国で乾燥地で灌漑農業なんかするより、水を工業にまわしてそこで稼いだ金で食料を買うという考え方があるのだという。そんなことになったら、今中国から多くの食料を買っている日本はどうなるのだろう。

田植えの準備が始まり田に水が張られたのどかな風景と、食料・水の輸入の現実とをダブらせてみた。

5月授業日は桜の湖の水を使った田植えだ。

お知らせ

5月7日・TV愛知・午後4時54分からのニュース番組「速ホウ」の中の「老いのかたち」コーナーで、安保校長がでます。

見てあげて下さい。